

安定多収となる早期水稻「ひなたみのり」の移植時期及び栽植密度

「ひなたみのり」は4月移植及び密植で精玄米重が多い

背景・目的

- 令和5年度から飼料用米「ひなたみのり」が県内において普及が進む中、安定多収に向けた栽培方法について、明らかにする必要があります。
- そこで、早期水稻における「ひなたみのり」の最適な移植時期及び栽植密度による影響について、検討しました。

成果の内容

- 移植時期別の精玄米重は4月移植が多く、次いで、3月移植、5月移植となる傾向がみられます（図1）。また、粗わら比が高いと、精玄米重が多くなります（図2）。
- 3月移植の場合、穂数が多く、精玄米重が多くなる栽植密度18.2株/m²以上が最適です。
- 4月移植の場合、栽植密度13.0株/m²で減収する傾向があるため、安定多収には15.2株/m²以上の栽植密度を確保する必要があります。
- 5月移植の場合、有意差はないものの栽植密度が高くなると精玄米重が増加する傾向にあり、また、紋枯病の発生も多くなります（表1）

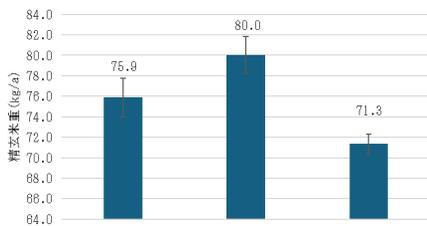


図1 移植時期別精玄米重 (kg/a)

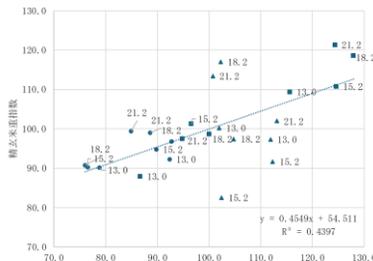


図2 粗わら比と精玄米重の関係

表1 収量及び収量構成要素

移植時期	栽植密度 (株/m ²)	稈長 (cm)	穂数 (本/m ²)	紋枯病	倒伏 (0~5)	精玄米重 (kg/a)	粗数		登熟歩合 (%)	玄米千粒重 (g)
							1穂当 (粒)	m ² 当 (百粒)		
3月下旬	21.2	80.0 a	288 a	無~微	0.5	81.6 a	129 a	369 a	85.7 a	25.4 a
	18.2	81.0 a	287 a	無~微	0.5	81.2 a	130 a	371 a	86.0 a	25.4 a
	15.2	81.2 a	214 b	無~微	0.5	66.0 b	138 a	295 b	85.2 a	25.3 a
	13.0	81.6 a	225 b	無~微	0.5	74.8 ab	141 a	316 b	85.1 a	25.2 a
4月中旬	21.2	86.8 a	232 a	微	1.0	82.9 a	162 a	377 a	84.0 a	25.2 a
	18.2	88.3 a	216 ab	微	1.0	82.3 a	175 a	377 a	84.3 a	25.1 a
	15.2	87.8 a	223 ab	微	1.0	80.3 a	172 a	382 a	84.2 a	25.0 a
	13.0	86.3 a	205 b	微	0.5	74.7 a	174 a	354 a	85.0 a	24.6 a
5月中旬	21.2	96.2 bc	244 a	微~少	1.5	75.2 a	165 b	403 a	72.7 a	25.0 a
	18.2	94.7 c	219 b	微~少	1.0	71.1 a	180 ab	396 a	70.5 a	25.1 a
	15.2	98.2 a	215 b	微	1.0	70.1 a	183 ab	364 a	73.0 a	25.0 a
	13.0	97.9 ab	202 b	微	1.0	69.1 a	194 a	392 a	74.7 a	24.9 a

分散分析表

移植時期(A)	**	**	**	**	**	**	**	*
栽植密度(B)	n. s.	**	**	**	**	**	n. s.	n. s.
(A) × (B)	*	**	n. s.					

※tukey検定：異符号間は5%水準で有意差有り、同符号間は有意差無し

※稈長及び穂数 n = 10、3反復

※収量構成要素 n = 3

※分散分析表：*は5%水準、**は1%水準で有意差有り、n. s. は有意差無し

※調査結果は2023年~2024年の平均値

成果の活用方法(又は期待される効果)

- 地域別の栽培暦等の技術資料への活用が期待されます。
- 普及対象：早期水稻（中部、南那珂、児湯、東臼杵南部）

留意点

- 移植時期が遅いほど稈長が高くなる他、紋枯病の発生程度も多くなるため、倒伏に注意します。

関連研究成果カード：2025年度整理番号 3

関連事業名：地域の水田農業を支える稲作技術の開発（県単）

研究期間：2023~2024年度